NATURE AND SCIENCE MUSEUM, TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND TECHNOLOGY

国立大学法人東京農工大学

科学博物館ニュース速報

Nature and Science Museum
東京農工大学
科学博物館

No.12　April 1, 2014　　第12号　2014年4月1日

ご挨拶

科学博物館長　梅田倫弘

科学博物館は様々な花木や木々に囲まれています。南側には桜、銀杏、ツツジ、北側には紅白の梅があります。それらの花木が年間を通してリニューアルした博物館に安らぎと華やかさを与えてくれています。特に、銀杏、紅白梅、桜は、平成24年10月リニューアルしたのちに2回も博物館に彩りを添えてくれました。つまり、早いものでリニューアルして1年半が経ったのです。

その間の総入場者数は、29,667人で、年間に直すと入場者数2万人となります。まだ目標の35,000人には及びませんが、リニューアル前までは13,000人前後だったのに比べて、1.5倍となっています。これもひとえに、リニューアル後の博物館活動にご理解、ご支援をいただいた学長をはじめとする大学執行部、教職員ならびに博物館支援団体の関係者のみなさん方のお陰と、スタッフ一同感謝申し上げています。

さて、私が博物館長を仰せつかって2年が経過しました。2年前の春に前任者の豊田前館長（現名誉教授）から引き継いだ時は、博物館に関する知識はほとんどなく、博物館に入ったのは何年前だったか、思い出すのも一苦労するレベルでした。そのとき与えられた命題は、何と言ってもリニューアルオープンをどうするかということと年間入館者数35,000人を実現させるための具体的な施策でした。4月早々、スタッフ全員でブレーンストーミングを行い、68項目にも及ぶ事柄をリストアップし、それに基づいてリニューアルオープンへの対応と目標入館者数の実現に一致団結して突き進みました。具体的には、以下の活動を計画・実施しました。

- 学内教員の研究成果を展示する企画展
- 学内の貴重資料を展示するため、博物館が主体となって企画したミニ企画展
- 学外および支援団体との共催による特別展
- 工学部1年次の講義時間内での博物館見学
- シャルドンネギャラリーの開設
- 年間、数度に渡る企画イベント（子供科学教室、国際博物館の日、科学技術展など）
- 館内音声ガイドの導入
- 博物館グッズの開発・農学部産品の販売
- 学生支援団体mussetの設立支援
- ホームページのリニューアル、Facebook, Twitterの開設
- ニュース速報の定期発行

これらの活動とともに、入館者数50%増の背景には、博物館支援団体（繊維技術研究会、博物館友の会、学生支援団体musset）のたゆまぬご助力があることは言うに及びません。特に、繊維機械の動態展示は日本国内はもちろん世界でも珍しく、本館の大きなセールスポイントになっており、今後も継承して行くことが重要です。また、mussetの学生諸君の活動は、特筆に値し、本学にプライドを持ち博物館をよくしたいという彼らの純粋な気持ちにいつも頭が下がります。

図らずも館長に再任されましたので、これまでの活動を継続・充実させるとともに、新たな活動を博物館運営委員、スタッフならびに支援団体とともに邁進していこうと思います。具体的には、以下のことを計画しています。

- 近隣博物館・美術館との協力関係の構築
- 近隣小中高との教育連携
- 博物館後援会の充実
- 農学部1年次の博物館見学の実現
- 新たな博物館グッズの開発
- 常設展示の英語キャプションの充実

この他にも大学附属博物館としての役目を弁えながら、大学構成員および市民の方々のための活動を進めていく所存ですので、これまで以上にご理解ご支援をよろしくお願いします。

着任のご挨拶

特任助教　齊藤有里加

3月1日付で、科学博物館特任助教（学芸員）として着任いたしました齊藤有里加です。

以前は地域博物館の学芸員として、くにたち郷土文化館に勤めていました。専門は保全生物学、博物館学です。市民共同調査としてハグロトンボのマーキング調査の実施や、資料価値が失われないよう、収蔵資料についてのオーラルヒストリー情報を映像で残す試みなどを行っていました。専門家だけでなく、市民と一緒に調べられること、資料に関して、その人だから知っていることにとても関心があります。東京農工大学科学博物館は博物館資料の展示のみならず、学生、OGB、地域の方々、大学教員と多くの人が関わり合いながら運営していることが大きな特色といえます。これから博物館推進計画を一緒に実施していくのをとても楽しみにしています。

3月より仕事をさせていただき、まだまだ分からないことだらけですが、博物館職員、支援団体一丸となって科学博物館を盛り上げていこう！という気持ちが伝わってきました。工学も農学も課題解決のために研究に取り組む分野です。大学が取り組んできたこれまでの研究も現在の最先端の研究もその志は変わりません。大学の中に生まれた博物館だからこそ、農工大の学生が展示を見て元気になれるような、そんな博物館にしたいと思います。リニューアルという新しい風を吹き込み、これまで博物館を支えてこられた高木先生の思いを引き継ぎ、邁進したいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

退職のご挨拶

特任助教　高木愛子

3月30日付で、東京農工大学科学博物館を退職して、国立近現代建築資料館に勤めることとなりました。皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。2年半という短い期間でしたが、博物館の耐震改修工事から新生博物館の立ち上げまで、通常業務とは異なる様々な仕事に携わらせていただき、かけがえのない経験となりました。

平成23年8月に、仮事務所への引っ越し準備で、学生達と汗だくになりながら資料梱包や備品搬出を行ったのが、私の当館での最初の仕事でした。着任後は、工事業者との調整の日々でした。歴史的建造物の保存活用を研究テーマとしていた私ですが、昭和14年竣工の博物館の改修を通して、その難しさを痛感させられました。工事終了後は、リニューアルの準備です。私は繊維について全く専門外だったため、あえて自分の“素人感覚”を大切にして誰にでも分かり易い展示構成を目指しました。平成24年10月3日のリニューアルオープン以降は様々な活動を展開し、お陰様で年間入館者2万人を超え、目標の3万5千人に着実に近づいています。

これらは、博物館支援団体の支えのおかげです。繊維について何も知らない私に色々とご教示くださった繊維技術研究会の皆様、着任早々提案した会則や活動の見直しにご協力くださった友の会の皆様、そして新生博物館に新しい風を吹き込んでくれたmussetの皆さん、本当にありがとうございました。今後も皆様の活動が当館の個性となっていくと確信しています。さらに相互の連携を深めて、博物館を支えていただければ幸いです。

また数多くの先生方や職員の方々にもお世話になりました。博物館運営委員会、府中・小金井博物館委員会の先生方、総務部総務課広報室の皆様、博物館事務の皆様には、業務に奔走し多々ご迷惑もおかけいたしましたが、支えていただきありがとうございました。

そして何より、業務の全てをご教示くださった中澤先生、着任早々様々な業務を任せてくださった豊田前館長、新生博

物館で常に先頭に立って導いてくださった梅田館長には、言葉では言い尽くせないほど感謝いたしております。
当館も２年目に入り、今後の活動について考えていた矢先の転職となり、私も心残りでなりません。しかし新たに齊藤先生をお迎えし、当館も新しいステージへと進んでいくことと期待しております。東京農工大学科学博物館のますますの発展を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

博物館に学んだ1年間

musset前会長　川島実紗

私たちmussetが活動を始めてから、1年が過ぎようとしています。
本館は大学附属博物館であり、大学にとって貴重な財産です。学生が博物館を支援しながら、学生自身も博物館から様々なことを学ぶという、学生と博物館が相互に高め合えるような理想的な大学附属博物館を目指して、mussetは活動を続けてきました。
この1年を振り返ると、色々なことにチャレンジしてきました。学生達でガイドの練習をして、実際に博物館のお客さんを案内したり、実験教室を企画したり、他の学生サークルに掛け合って出し物をしてもらったり、先生をゲストに呼んで歌を歌ってもらったり。今では、学生サークルの方から、企画を持ち出してきてくれたりと、博物館に興味を持つ学生も増えているように感じています。また、他の博物館の見学にも出かけ、本館に役立つような試みなどを勉強しています。
4月からmussetは、設立時のメンバーから後輩に引き継がれ、新しい段階に入ります。春になれば新入生も参加し、ますます賑やかになることでしょう。これからも農工大科学博物館を盛り上げるべく活動していきますので、よろしくお願いします。
またmussetの設立から現在まですべてを支えてくれた高木先生が、この度ご退職なさるということで、この場を借りて厚く御礼申し上げます。
（工学部機械システム工学科4年）

ミュージアムショップ本格始動！

当館では、平成25年1月8日からミュージアムグッズの販売を試行してきました。1年間の実績を踏まえて、ついに4月1日より科学博物館ミュージアムショップが本格始動します！販売場所も、階段下から博物館受付の向かい側に移動し、一段と分かりやすくなっています。
これまでのミュージアムグッズに加え、農学部FSセンターの農産品の一部も販売を開始しました。農工大産小麦を使った乾麺をはじめ、季節限定商品も定期的に入りますので、要チェックです。また、生協の農工大グッズも近々加わる予定です。更に、当館所蔵のジェット織機で織った生地を使用して新たなミュージアムグッズも開発中ですので、楽しみにお待ちください。
そしてなんと、農工大広報大使に任命されたハマカーンが、記者会見でミュージアムグッズのネクタイを着けてくれました。このネクタイは、当館所蔵のジャカード織機で織っている絹100%のレア商品です。
今、農工大科学博物館ミュージアムショップが熱いです！是非皆さんも、ご来館の記念や農工大のお土産として、お買い求めください。
（科学博物館特任助教　高木愛子）

エントランスのミュージアムショップ

ミニ企画展「分館コレクション畜力農機具展」はじまる！

ミニ企画展「分館コレクション畜力農機具展」が始まりました（3月29日（土）～6月末（予定））。東京農工大学は、明治期初期から昭和30年代までの間に使われたさまざまな形式の畜力農機具100点あまりを所有しています。本資料群は産業考古学会選定「日本の産業遺産300選」に選定され、当館分館の畜力農機具資料室（府中キャンパス）に保存・展示されていましたが、現在は分館耐震工事に伴い、別置保管されています。今回はこの中から代表的な農機具を12点ほど展示しています。オンガと呼ばれる犂（すき）から〇コ犂（まるこうすき）、松山式双用犂など犂が改良されて行く様子や、牛馬の力を動力にするための畜力原動機、洋式農具のプラウやカルチベーター等を実物でご覧になることができます。
戦後、動力耕耘機に代わる直前（昭和28年～30年ごろ）まで畜力は盛んに利用され、全国の水田面積の約80%が牛馬耕によって耕されるほどでした。今日の農業機械の基礎ともなった畜力農機具をぜひご覧ください。
（科学博物館特任助教　齊藤有里加）

ミニ企画展
「分館コレクション畜力農機具展」

博物館日誌

2月及び3月の入館者数は、それぞれ、2,119人、1,151人でした。例年ですと2月はサークル作品展があり、入館者数が大幅に伸びるところだったのですが、作品展初日が大雪で閉館せざるを得なくなり、入館者数が伸び悩んでしまいました。

さて、企画展、衣料から医療へ「シルクで創る人工血管」を2月11日（火）～4月26日（土）まで実施しております。そのイベントの中で2月23日（日）AM11:00～11:30 BS朝日、菅原明子の地球大好き未来便「絹の人工血管」で朝倉先生が出演されました。
その反響は凄まじく、電話の問い合わせが殺到し、受話器を置くとすぐに電話が鳴り出す状況でした。またその週に、京都から２組、金沢から１組、新潟から１組がわざわざ来館されました。遠方からいらっしゃったお客様にどうしたら喜んでもらえるかと考え、朝倉先生に解説を依頼致しました。朝倉先生もいろいろお忙しい中、快く引き受けて頂き、誠にありがとうございました。そのお客様も直々に朝倉先生に説明してもらったということで大感激で、お帰りになられました。しかしながら、たまたま付けたテレビに感動して足を運んでしまう行動力に、私の方がビックリさせられました。また、食道動脈手術をしなければならない患者の方がいらっしゃって、「早く実用化されれば良いですね」と言って少し寂しげに帰られました。絹の人工血管が自分の血管に入れ替わることが実用化すれば、相当数のニーズがあることを肌で感じました。
さて、4月15日（火）10:00～当館3F講堂で、「絹の素晴らしい構造の解析と絹の医療への応用」として朝倉先生の講演があります。興味のある方は是非、ご参加下さい。
（科学博物館事務・北川和幸）

《博物館活動カレンダー》

★平成25年度第2回企画展
「シルクで創る人工血管」
平成26年2月11日-4月26日
1F企画展示室

★平成25年度第2回ミニ企画展
「分館コレクション畜力農機具展」
平成26年3月29日～6月30日
1F教育研究展示室

★子供科学教室
平成26年4月20日：
光る泥だんごを作ろう

★国際博物館の日イベント
平成26年度5月17日（土）

★繊維技術研究会講演会
・4月15日10時～12時　朝倉哲郎
「絹の素晴らしい構造の解析と絹の医療への応用」
・6月17日10時～12時　速水美智子
「富岡製糸場をめぐる人びと　～速水堅曹を中心に～」

「科学博物館ニュース速報」第12号
◆発行日　2014年4月1日
◆編集　科学博物館ニュース速報編集委員会
梅田倫弘・齊藤有里加・北川和幸
◆発行　東京農工大学科学博物館